

福臨技企画 1

「“New Normal” 新たな時代を迎えて～新型コロナウイルス感染下における技師会活動の今後～」

ポストコロナを考える ～技師会活動変革の時代（とき）～

◎丸山 晃二¹⁾

独立行政法人国立病院機構 西別府病院¹⁾

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症により、大分県臨床検査技師会の活動は悉く延期あるいは中止となった。今回、現在に至るまでの当会の状況を紹介します。その経験から考え得た「技師会活動の今後」について報告する。

【活動状況】

<2019年度（2020年2月以降）>

- ・第51回県学会：中止

<2020年度>

- ・第52回県学会：Webにて第51回と同時開催
- ・部門研修会：10月以降 Zoom を使用し10回開催
- ・各種会議：7月まで集合、8月以降は Web 開催
- ・公益事業：「検査と健康展」含めすべて中止

<2021年度>

- ・第53回県学会：Web 開催
- ・部門研修会：Web・ハイブリッドにて21回開催
- ・各種会議：Web・ハイブリッド
- ・公益事業：「検査と健康展・RFL」→規模縮小し開催

【Web の利点と欠点】

| 利 点 | 欠 点 |
|---------------|-----------------------|
| 参加しやすい | ネット環境により画像・音声に不具合が生じる |
| 会場確保の心配が不要 | 参加者の反応が分かりにくい |
| 交通費など経費が削減される | レポート提出率が低い |
| | 人間関係が希薄になる |

【今後の方向性】

行政や企業がデジタルトランスフォーメーションを推し進める中、検査技師が乗り遅れることなく最先端の技術を習得し使いこなすことは必須であり、結果タスクシフト/シェアに繋がるものと考えます。技師会としても、その人材育成に取り組み、また活動に利用できる便利なツールは積極的に取り入れていくべきと考えます。今後はデジタルが主流の時代になると思われるが、当会では会員や他団体との交流を図るリアルな場も重要と考えています。

今後リアルの重要性を考慮しつつデジタルと使い分け、会員にとって有益な事業を展開していきたい。